

京都のかじ取り役を決める山形市長選は来年9月27日の任期満了日まで、あと1年余りとなった。3期目の市川昭男市長(73)は態度を明らかにしていないが、前回選挙に自民推薦で出馬した元経産省官僚の佐藤孝弘氏(38)は雪辱を期し、精力的な動きを見せている。市川氏の態度表明時期と合わせ、市川市政を支えてきた民主、社民、連合山形などの「非自民」勢力の動向が注目されている。

市川氏は8月28日の定例会見で、次期市長選への対応を問われ、現時点で「白紙」と強調。態度表明の時期についても「未定」を繰り返した。

2011年の前回選挙で民主、共産、社民などの推薦を受け、3選を果たした市川氏。山形広域環境事務組合の管理者として懸案だった新清掃工場整備にめどを付け、自らが精力的に山形開催を働き掛けた東北六魂祭(5月)を成功に導いた。

その半面、市が発注する工事請負と業務委託に関

今後の態度表明が注目される市川昭男氏



山形市長選まで1年余

注目の「非自民」動向

し、労働者の賃金の下限額を定める公契約条例案は市議会です度3度の継続審議となつた末に否決。市政与党会派も一部議員が反対票を投じ、蜜月関係は崩れ始めている。市立病院済生館が消費税転嫁法に違反したとして、6月に公正取引委

現職の態度が定まっていなない現段階で、前回、市川氏を支援した非自民勢力の市中で次期市長選に向けた本格的な議論はまだない。だが、一部では「市長交代は既定路線」として、後継候補の模索が水面下で始まっている。佐藤氏は、前回選挙を契機に市内に移り住み、政治活動や地域活動を本格化。週2回、街頭でのつじ立ちを行い、知名度アップに取り組んでいるほか、13年にはNPOを立ち上げ、市の将来ビジョンを語り合う勉強会を開催している。遠藤利明衆院議員や自民党所属の県議、市議などの支援を受け、次期市長選に向けた後援会組織づくりも積極的展開。現在、市内に24の地域後援会を設け、11日には後援会連合会を設立。準備を加速している。

佐藤氏、決意新た

後援会連合会
設立総会・山形

佐藤孝弘氏を支援する山形市後援会連合会の設立総会が11日夜、同市のパレス

約1500人が前に、佐藤氏は1年後に控えた次期市長選に再び挑む決意を語った。

『よそ者』と言われたが、今度は大丈夫。2歳の息子は山形生まれ」と場を和ませた。その上で、京都の人口減少を食い止めるための雇用確保、公共交通の充実といった主要施策を示し「都市と自然のバランスに優れた山形市がこのままでいいのか。本気で元気にしたい」と力を込めた。最後は会場全体で氣勢を上げ、さながら決起集会の様相を呈した。

北海道出身の佐藤氏はあいさつで、「前回選は相手陣営から多くの支援者とともに氣勢を上げる佐藤孝弘氏(中央) 山形市・パレスグランデール

来賓として自民党の遠藤利明衆院議員、大沼瑞穂参院議員、今井栄喜県議、長谷川幸司党市支部長、公明党県本部の菊池文昭代表があいさつ。後援会連合会長に鈴木喜代寿スズキハイテック社長を選んだ。

